



大氣物類抄
五
貳



こころのちかやうにちかやうにちかやうに
とくちかやうにちかやうにちかやうに
ふもちかやうにちかやうにちかやうに

つとより 枕双巻にちかやうにちかやうに
入てあつちかやうにちかやうにちかやうに
1そもつちかやうにちかやうにちかやうに
加祭未利とよちかやうに日本紀神代下云以玉鏡來當汲
水云纂疏云鏡當作梳益同小盃也此猶釣瓶之意也
これに金梳もつちかやうにちかやうにちかやうに
後盤を引もつちかやうにちかやうにちかやうに
食物へし黒もつちかやうにちかやうにちかやうに

あつちかやうにちかやうにちかやうに
ひつちかやうにちかやうにちかやうに
かつちかやうにちかやうにちかやうに
きつちかやうにちかやうにちかやうに
なつちかやうにちかやうにちかやうに
あつちかやうにちかやうにちかやうに
つちかやうにちかやうにちかやうに
えつちかやうにちかやうにちかやうに
ぬつちかやうにちかやうにちかやうに
まつちかやうにちかやうにちかやうに
よつちかやうにちかやうにちかやうに

けりひきき。西代風土記あり。證文あり。し
ちのあれと。宗祇説す。京極黃門乃其宗云々。ひ
尚依ふ用と。又云。七代ハ之明帝和銅三
年。難波より和州乃都小うつり。孝仁帝
ナク七代也。元明元正聖武孝謙
廢帝稱徳光仁以上當流小あり。其
文武帝と用傳へし。之の帝前一代あれん。あ
へ乃其。於此事。又後常恩寺殿
中説す。始文武帝開祭良官而歸藤原也。而重元明
帝用祭ヒラ帝ヒラもの。思按諸説あり。其帝は
百代毎号あり。ハ文武帝也。故ハ有ハ九也。袋
双紙人丸勘文云。如萬葉人磨歌始於藤原御宇。又敦

光郷人磨賛亦云。仕持統文武之聖朝。遇新田高市之
皇子云々。人丸。神皇元年三月より也。於
り。聖武。人同二月。即位されん。其朝小仕
事。理あり。傳る。又比次。新田川。其
これハの法製あり。之を古今小。其帝の
事。ト。京極黃門乃。文武天皇
事付より。されん。其帝と。其
なき。但又或人。其集の。其註を。貞應
本。ハ文武と阿佛乃。其嘉禄本小
とあり。為明の。其

こと

川にさかすまはるるはれはあつるはら

わくしあき中やとくしん

古今序。秋のゆきふりて川よりあつるは

らちをさすはれおちしめりてあきとくは

ひしゆるるはら事とや。祇詠よまは

やく時の景氣肝心とく

とくあつるはらとく

とくあつるはらとく

左傳云春蒐夏苗秋獮冬狩皆於農隙以講事也

三年而治兵久而振旅杜預註蒐索擇取不孕者苗爲

番除害也獮殺也以殺爲名順秋氣也狩圍守也冬物畢

成獲則取之無所擇也云云云云王公乃帥其

野初者とつて蒐狩也汝をあらするも是れ

熟不熟をさすはらんとせんもあつるは

これ巡狩乃さすはら孟子云天子適於諸侯曰巡

狩巡狩者巡所守也諸侯朝於天子曰述職述職者述所

職也無非事者春省耕而補不足秋省斂而助不給云

云云はらとくはらとくはらとくはらとくはらとく

はらとくはらとくはらとくはらとくはらとくはら

はらとくはらとくはらとくはらとくはらとくはら

けしんらるるいんくしんり。あかり泥障。
るるのせきしる首をくくしんくしん。

あつたのやまをうたりとくしん

神中抄云。顯昭云。あつたのやまをうたりとくしん

世の中らるるしんくしん。四境のやまをうたりとくしん。たつたやま

のやまをうたりとくしん。鶴しん。木綿をうたりとくしん。四方の岡

しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

古今十八。後人ふたはうしんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

あつたのやまをうたりとくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

あつたのやまをうたりとくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

あつたのやまをうたりとくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

あつたのやまをうたりとくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

あつたのやまをうたりとくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

あつたのやまをうたりとくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

あつたのやまをうたりとくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

あつたのやまをうたりとくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

あつたのやまをうたりとくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

あつたのやまをうたりとくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

女五

あつたのやまをうたりとくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

あつたのやまをうたりとくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

あつたのやまをうたりとくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。しんくしん。

がうと拾遺より傳ふるよ。おやれおやとあるは
のたよりをきくわが子れらるゝあはれおやと
て深きこころにうらみ。又桐壺より源氏のまは
祖母のまをかれをいふまに傳れしは信も祖
母の孫をうこそと事とせしは傳へんや
これめれ心ひてらるるまにあらはれし
めのたひをすまらぬをうらみしやうと男
にもこれまのまのたひをうらみし事なり
ひきまをたひにひてこれまのまをうらみ
あらむことおやれしはまにあらむまなり。
これめれ心ひ男れ妻をたひよめ也。又一説云

ありとをいふおやのまにあらむまに
てすまら子れ妻とわき出さる。しをまのま
おやれらる。一説し此をたひは心とよむま。
ひてこれまをうらむまをうらむま。ま
のハ疎と子を畧せし一説よりすまに愚と
いふまに妻乃らひまにすまにたれまに
や一愚徳をいふまにすまに愚ある事なれ
あり。し男のまにけまをうらむまに
ん。おやとこころをうらむまにけまをうらむまに
乃とめま。まをうらむまにけまをうらむまに
うらむまのまにけまをうらむまにけまをうらむまに

ふ李令伯の爵禄も感カんざりたる情はまろくして
しめしとあやむるまほし。又よりのきつとあはわ
しきまのつらひてよをのちらまをまほしほ
とくへの例として骨肉乃をくくはし
とこととらまはらちちとたをわをまほし
いとすよとあえとらまにちちまほし
とらまよとらまにちちまほし
無しよとてひがめを女ららのちちくしてたれ
とらまよとらまにちちまほし
かろくはていひてあまをとりまほし
唐夫人乃女にちちまほし

のうあまにちちまほし
ひとよあまにちちまほし
無しよとてひがめを女ららのちちくしてたれ
とらまよとらまにちちまほし
かろくはていひてあまをとりまほし
唐夫人乃女にちちまほし
のうあまにちちまほし
ひとよあまにちちまほし
無しよとてひがめを女ららのちちくしてたれ
とらまよとらまにちちまほし
かろくはていひてあまをとりまほし
唐夫人乃女にちちまほし

と云ふ事をしては可なり。其の事も、
のちあらん事にしては可なり。其の事も、
と云ふ事をしては可なり。

此の事からして、
同。毎の事として、
其の事も、
す。其の事も、
と云ふ事をしては可なり。
と云ふ事をしては可なり。
と云ふ事をしては可なり。

此の事からして、
と云ふ事をしては可なり。
と云ふ事をしては可なり。
と云ふ事をしては可なり。
と云ふ事をしては可なり。

此の事からして、
と云ふ事をしては可なり。
と云ふ事をしては可なり。
と云ふ事をしては可なり。
と云ふ事をしては可なり。

とてつり。家なき事し。あまのし。あまのし。
愚察妻の鹿の心を真しくし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。

男女のまのまをま。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。

あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。

西三条右大臣良相女滋春母。

よ〜ゆりたれと〜。勅云、道院有大臣能有。文徳源氏。寛

平九年薨。

物をよくきまひくれは、
けぞまひくもよあやどもをたぢくはう〜
くれハくもとりれんあやをやうも〜
〜〜をよ〜もの〜
〜〜熱は〜めうげ〜
ハた〜後〜り〜

物をよく〜
〜〜
〜〜
〜〜
〜〜

す〜
〜
〜
あや。社中抄云。中つるは、
〜ト同多〜百詠註云有雲鶴綾地云、
〜
〜
〜
〜
〜
〜

人をあひらぎてとれぬおれん

人をあひらぎてとれぬ。藍^まをこころいほしあ

おのゝちをぬきよかりあしよる。是^まちり

あおれりまもせしあり。西葉^まをこころいほしあ

りあはせしよる。内侍^まり久しあひあ

とらんのしよる。いほのたあしよる

とらんのしよる。いほのたあしよる

とらんのしよる。いほのたあしよる

よるしやりき

秋んきをきよる。内侍^まりあしよる

人のこころいほしあ

人のこころいほしあ

まげ下^まあしよる。内侍^まりあしよる

を

とありたれん

秋のをりあしよる。内侍^まりあしよる

とらんのしよる。いほのたあしよる

とらんのしよる。いほのたあしよる

とらんのしよる。いほのたあしよる

とらんのしよる。いほのたあしよる

とらんのしよる。いほのたあしよる

とらんのしよる。いほのたあしよる

あつらひ 澣濯し。官人朝毎うつあつる時毎月
一旬一夜すまぐ。衣服をあつらひては是ハ一月三
十日を。上澣中澣下澣をとりよす也。澣澣完同。

内務省の事ありあつるの事ありあつる
ありあつるの事ありあつるの事ありあつる
いふことあり。その事ありあつるの事ありあつる
ハ。是れありあつるの事ありあつるの事ありあつる
たあぬ事ありあつるの事ありあつるの事ありあつる
よる事ありあつるの事ありあつるの事ありあつる
大幣大幣。接しる時麻麻草草を。柳柳をつひて
とらふことありあつるの事ありあつるの事ありあつる

あれ。このことありあつるの事ありあつるの事ありあつる
しよる事ありあつるの事ありあつるの事ありあつる
ち川ち川ありあつるの事ありあつるの事ありあつる
事業事業ありあつるの事ありあつるの事ありあつる
うる事ありあつるの事ありあつるの事ありあつる
さ。この事ありあつるの事ありあつるの事ありあつる
あつる事ありあつるの事ありあつるの事ありあつる
信信ありあつるの事ありあつるの事ありあつるの事ありあつる
とらふことありあつるの事ありあつるの事ありあつる
あつる事ありあつるの事ありあつるの事ありあつる
ひきかん人ありあつるの事ありあつるの事ありあつる

一向の御事... 高子長良卿女貞觀十九年閏二月廿七月中
宮元慶六年正月七日皇太后宮... 宣旨法印詔...
平を... 實... 十七歳の時...
おひ... 社... け... 女...

とらん... 二条后宮... 高子長良卿女貞觀十九年閏二月廿七月中
宮元慶六年正月七日皇太后宮... 宣旨法印詔...
平を... 實... 十七歳の時...
おひ... 社... け... 女...

傳り。うまの心。おのひあゝわがむかひあり
 もたし。ちか。お知。このこもれ。く。や。き。柄
 あり。ちか。ちか。ひ。き。このも。傳。く。と。は。社。を
 う。う。や。あ。ひ。て。もと。あ。や。后。乃。後。く。志。傳。志
 乃。知。を。お。わ。ら。り。て。は。あ。ら。ま。し。し。け。り。よ。此。句
 の。ひ。き。物。を。ご。子。御。よ。の。つ。ひ。ハ。優。美。し。も。き
 こ。く。傳。の。き。を。鹿。尾。菜。を。く。け。ん。と。ま。れ。よ。
 け。あ。よ。ち。て。ハ。一。入。り。や。お。伝。く。諸。抄。よ。ま。る。せ。り。
 と。あ。ん。の。こ。ま。つ。り。る。ま。を。ん。ま。ん。ま。れ。よ。る。る。
 け。き。き。い。れ。や。春。宮。乃。女。御。と。き。こ。して。お。か
 け。野。り。く。ま。よ。ら。り。け。も。い。ん。く。ち。め。殿

上人の... 一つ... 春宮乃女御...
 上人の... 一つ... 春宮乃女御...
 上人の... 一つ... 春宮乃女御...
 上人の... 一つ... 春宮乃女御...
 上人の... 一つ... 春宮乃女御...
 上人の... 一つ... 春宮乃女御...
 上人の... 一つ... 春宮乃女御...
 上人の... 一つ... 春宮乃女御...
 上人の... 一つ... 春宮乃女御...
 上人の... 一つ... 春宮乃女御...

春宮の女侍。伊勢物語。動物。貞觀十一年二月貞
 明親王爲皇太子。于時高子爲女御。依東宮。女儀也。
 去年十二月廿六日誕生。高子年廿七。おか。ま。の。つ。よ。ま
 う。く。一条禪閣御所。説。ひ。社。く。右。宮。の。ま。う。く。也
 ね。ん。く。あ。よ。ま。日。れ。本。社。を。ま。う。よ。ん。く。都。ち

二条后... 乃时... 事... 神代... 此心... 内...
か... 乃... 事... 神代... 此心... 内...

日本紀云天照太神手持寶鏡... 天忍穗耳尊而祝
之日吾兒視此寶鏡當猶視吾可與同床共殿以爲
齋鏡後勅天兒屋根命太玉命惟余二神亦同侍殿
内善爲防護云云 春日四所大明神第一殿武甕
槌命第二殿經津主命第三殿天兒屋根命第四
殿姬太神天照太神 伊勢豐受宮國常立尊或
天御主神也舊事紀云天御中主者左者瓊杵
國也 而右同体異名之義矣
尊右 兒屋根命也 是所謂相殿也

と... 乃... 事... 神代... 此心... 内...
か... 乃... 事... 神代... 此心... 内...
か... 乃... 事... 神代... 此心... 内...
か... 乃... 事... 神代... 此心... 内...

ふいよのいそちうるや。花やすまをなも花
いそちうるいそち。一草二名のゆゑも花
とまゝあるいそち。花やすまをなも花
くまもいそち。いそち。いそち。いそち。

いそち。社中おちいり。いそち。いそち。いそち。
いそち。いそち。いそち。いそち。いそち。
いそち。いそち。いそち。いそち。いそち。

在中将。いそち。いそち。いそち。いそち。いそち。
いそち。いそち。いそち。いそち。いそち。
いそち。いそち。いそち。いそち。いそち。

いそち。いそち。いそち。いそち。いそち。
いそち。いそち。いそち。いそち。いそち。

うへ
いそち
いそち

いそち。いそち。いそち。いそち。いそち。
いそち。いそち。いそち。いそち。いそち。
いそち。いそち。いそち。いそち。いそち。

いそち。いそち。いそち。いそち。いそち。
いそち。いそち。いそち。いそち。いそち。
いそち。いそち。いそち。いそち。いそち。

を中侍とひてしるひたり

うらみおのとも。清和天皇

文徳第四母大皇太后宮明子号深殿后

天安二年

十一月七日即位。元慶四年十二月四日崩

元

葬水尾山

因号水尾帝。左大辨闕

とて侍りし

清和帝元慶三年五月八日落飾。結髪して成徳

中将やまひとたれましくしてわつひくをまの

めりあり。されまじきあひてある事な

はつまもさつひくをます。まのひくはま

らひくるとりありたり。あまのまも

あまのひくはまらへし。あまの

あまのひくはまらへし。あまの

あまのひくはまらへし。あまの

葉平一つさうひ

妻をまのまのまのひくはまらへし。あまの

まのまのまのひくはまらへし。あまの

葉平元慶四年五月二十八日卒。五十六歳。

つまのまのまのひくはまらへし。あまの

まのまのまのひくはまらへし。あまの

病中乃つまのまのひくはまらへし。あまの

まのまのまのひくはまらへし。あまの

まのまのまのひくはまらへし。あまの

まのまのまのひくはまらへし。あまの

まのまのまのひくはまらへし。あまの

あきらなり... 是則一切衆生乃_ル辭世也... 在中将...

在中将...

てあきらなり... 是則一切衆生乃_ル辭世也...

いほつとあきらなり... 是則一切衆生乃_ル辭世也...

あやあきらなり... 是則一切衆生乃_ル辭世也...

はねあきらなり... 是則一切衆生乃_ル辭世也... 愚業は物流の河のまを...

おん心をもくしよとてりしよや。大鏡了。二争
の后れりもをひさしくひて。ことせぬ人の志
しきとてある事とげはあつひのちひとす
んけえぬれ事なせりてあつひとてひん
をさうりもすもりのあり。しとあり。

とあれんさんちりし

見もんてふされとちりてのころし

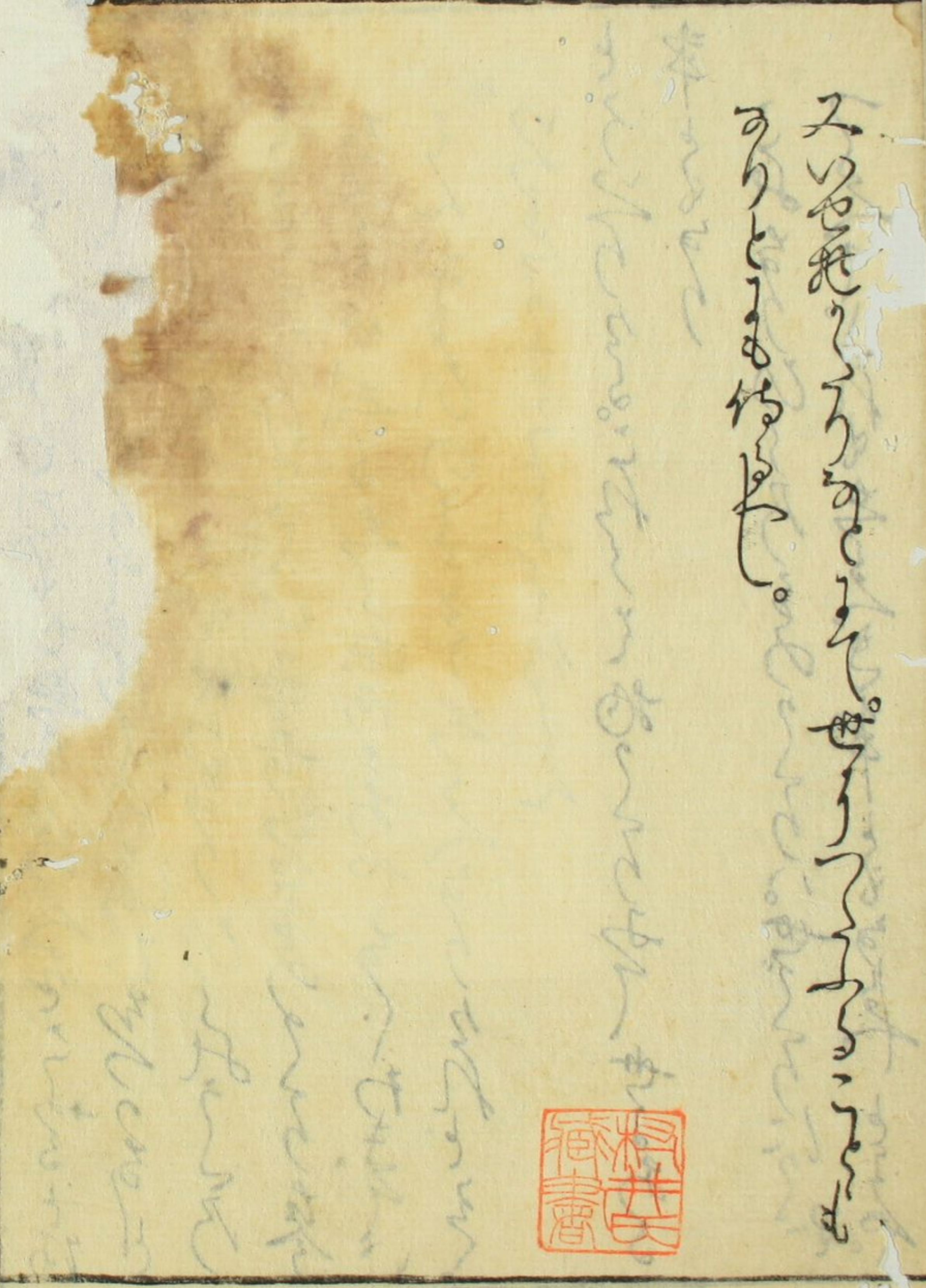
おあつひもりくはれあめを

おあつひのころのおあつひのころし
はつひのころしをひとせぬりし。し
をひつとあり。しき事あれし。

おん心をもくしよとてりしよや。大鏡了。二争
の后れりもをひさしくひて。ことせぬ人の志
しきとてある事とげはあつひのちひとす
んけえぬれ事なせりてあつひとてひん
をさうりもすもりのあり。しとあり。
見もんてふされとちりてのころし
おあつひもりくはれあめを
おあつひのころのおあつひのころし
はつひのころしをひとせぬりし。し
をひつとあり。しき事あれし。

おん心をもくしよとてりしよや。大鏡了。二争
の后れりもをひさしくひて。ことせぬ人の志
しきとてある事とげはあつひのちひとす
んけえぬれ事なせりてあつひとてひん
をさうりもすもりのあり。しとあり。

又の巻は...
 ...
 ...



...
 ...
 ...

...
 ...
 ...

此のよみもききものあてに湯殿のうへまゝ
ひけてゑらひぬ事はやうに傳へたるよし。又
此の男女のまねを双紙の地代詞に可成は後
いさやきし人よあはれむ。つらむ

わらうしあまのうきものさうつ
又文字にらやまきしとくしとくしとくしとくし
今よりめし肌あましとくしとくしとくしとくし
されん。さうしとくしとくしとくしとくしとくし
ともあしする。かふとくしとくしとくしとくし
を三あしとくしとくしとくしとくしとくし
あつこのさうしとくしとくしとくしとくしとくし

いさよむしあてにまたり。いさよむしあてにまたり
く。まのひしとくしとくしとくしとくしとくし
ありたり

あつこのさうしとくしとくしとくしとくしとくし
母皇太后橘嘉智子。贈太政大臣正一位清友女。天長十
年三月六日即位矣。崩而葬深草山陵。因号深草帝。
良少将勳云。良峯宗貞。承和十一年正月藏人^{北九}
十二年正月七日從五位下。十一日任右兵衛佐^{三十}。
十三年正月七日從五位上。同日右少将。嘉祥二年正月藏人頭^{三十四}。
少。ゆきとくしとくしとくしとくしとくしとくし

りきよも仁明帝乃官女也。内裏よりこの
こよひつあつすあまんとはきりりしあまなり
女のみあはらうとてまのりむもあてめをさ
ましあまやああぬんとおよおしおまもあ
まのまをれまきしりしむもあまのりむ
まいてたまひのまもふとくひやにあま

あまのりむとて。うちよのちよあまのりむ
良女將のこまのりむとて。めをばまのりむとて。女し。とまのり
うとまのりむ。禁秘抄云。奏時事。上古隨陰陽察。

漏刻奏之。近代指討藏人仰之。丑梳以後爲明日分。
ししむとて。一時を四刻とて。あま

子ひとらむも。むらうとて。漏刻
のゆ。一日一夜十二時を百刻とて。卯車もあれ
と。是も四十八刻もあ。あまのりむ蓮花漏も四十八刻とて。

人ららむとて。あまのりむ
心とて。あまのりむとて。あまのりむとて。あまのりむとて。

あまのりむとて。あまのりむとて。あまのりむとて。あまのりむとて。

あまのりむとて。あまのりむとて。あまのりむとて。あまのりむとて。

あまのりむとて。あまのりむとて。あまのりむとて。あまのりむとて。

ちのつとむるくか將のちとむるも常なるを女の
 佛のちとむるをたはるもりか將のちとむる
 及(た)まはるる福經のちとむるのちとむる
 のちとむるのちとむる。

のちとむるのちとむるのちとむるのちとむる
 ちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 ちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 ちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 ちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 ちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 ちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 ちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの

とむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 のちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 ちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 のちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの

ちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 のちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 ちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 のちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 ちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 のちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 ちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 のちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 ちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの
 のちとむるのちとむるのちとむるのちとむるの

こきふり。の。調。羅。ふ。で。ち。宿。ま。て。過。昭。の。ら。ま。
あり。と。ら。の。を。こ。れ。妻。の。さ。も。い。の。ち。り。し。し。
は。と。し。あ。り。し。は。が。く。あ。ま。の。ま。ら。り。の。名。文
り。ら。り。の。ま。ま。の。ち。ら。り。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
に。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

仁明帝の御服
は。ら。ら。の。解。服。の。時。川。あ。り。し。は。被。し。と。ま。
よ。の。ら。り。の。事。と。し。は。し。天子。乃。御。綰。紵。
河。あ。り。た。の。り。解。除。と。し。は。禁。祕。あ。り。し。は。
こ。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

つ。ち。あ。り。お。柏。の。か。ら。り。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
こ。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

古今集に入傳。詞もふま。い。ま。く。は。り。し。あ。ま。
し。あ。り。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
と。あ。り。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
せ。り。し。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
あ。り。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
人。あ。り。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

てあんなにちかぢかぢとさうさうとあつた。

ついでにあつた。ついでにあつた。ついでにあつた。ついでにあつた。ついでにあつた。
ついでにあつた。ついでにあつた。ついでにあつた。ついでにあつた。ついでにあつた。
ついでにあつた。ついでにあつた。ついでにあつた。ついでにあつた。ついでにあつた。
ついでにあつた。ついでにあつた。ついでにあつた。ついでにあつた。ついでにあつた。

り将太とくうらあきこ。おあやのしつこまりて

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

たのむにやうな事なればとていふに
ありしにやうな事なればとていふに
しるしにやうな事なればとていふに
出づるにやうな事なればとていふに

わがこゝろの教のよき事なればとていふに
ひげのよき事なればとていふに
くさりのよき事なればとていふに

わがこゝろの教のよき事なればとていふに
山のあゝありなればとていふに
ふりまゝにやうな事なればとていふに
よき事なればとていふに

ふりまゝにやうな事なればとていふに
ふりまゝにやうな事なればとていふに
ふりまゝにやうな事なればとていふに
ふりまゝにやうな事なればとていふに

右宮乃少將乃海軍少将のやうな事なればとていふに

書状を消息といふ。蓋し抄とてや。文選李
善註云。消言往也。事既往故曰之消也。息言來也使
無所求故曰息也。云云。其の事ハ往來消息同事ニ
ス消息乃二字をちりけり。むとていふにやうな事なればとていふに
おとす乃少將乃海軍少将のやうな事なればとていふに

おふ長崎の事... 小所... 同人と... 野と... 日本紀の式... 江次第... 壯時... 中將の陸奥...
おふ長崎の事... 小所... 同人と... 野と... 日本紀の式... 江次第... 壯時... 中將の陸奥...
おふ長崎の事... 小所... 同人と... 野と... 日本紀の式... 江次第... 壯時... 中將の陸奥...

おあつ... 町戸... 法... 小所...
おあつ... 町戸... 法... 小所...
おあつ... 町戸... 法... 小所...

らけの衣も兼門の衣はきつても正昭の昔
の袂もよももまはりつまげ小町うさつま
うねるよみねとよよりらけの衣とよきり
けうの袂撰くもさうたのさうさうふまうて
てとさ事ゆりつらさうのつらさ
とつひやりつらさうのつらさ
世をうもつらけ衣もさひひと
つらさうのつらさうのつらさ
かきつらさうのつらさうのつらさ
のつらさうのつらさうのつらさ
つらさうのつらさうのつらさ

とつひつらさうのつらさうのつらさ
あせつらさうのつらさうのつらさ
とつひつらさうのつらさうのつらさ
とつひつらさうのつらさうのつらさ
つらさうのつらさうのつらさ
つらさうのつらさうのつらさ
つらさうのつらさうのつらさ
つらさうのつらさうのつらさ

勘云。元慶三年權僧正天台宗 六十五。仁和元年僧正。二年輦
車。十二月八日於仁壽殿賀賜。七十二薨。元亨釋書
作七十四。つらさうのつらさうのつらさ
乃傳をとつらさ

俗のいふまじりたる時の子孫もまゝくつり。天宮
近乃將監より。殿より申ありある。かくよに
いふまじり申す。いとまじり申す。母も底に
なれど。いふまじりなれん。法師の子に初し。ち
うよまじり申す。なれど。初し。ちうよまじり

太郎も近將監。玄利。或僖時。清和御時。

殿上人。法名素性。り。いふまじり。いとまじり

いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり
よまじり。いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり
いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり
いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり
いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり

と。聖徳太子乃。我子孫爲^タ空^カ無^ラ日本之相續

とのいふまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり

いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり

か。て。ま。ん

ちうよまじり。いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり

いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり

いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり

いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり

いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり

いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり

いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり

いとまじり。法師のいふまじり。ちうよまじり。いとまじり

く乃しとめれ。しんまきしとくえん
りるを。しんまきしとくえん。おまきしとくえん。
おまきしとくえん。おまきしとくえん。おまきしとくえん。
おまきしとくえん。おまきしとくえん。おまきしとくえん。
おまきしとくえん。おまきしとくえん。おまきしとくえん。

素性由性一信とて遍昭乃子よりは師とて我く
親族し。万葉し。これを二字よりや。しとま
や。しとま。おまきしとくえん。おまきしとくえん。
ありしとくえん。しとま。しとま。しとま。しとま。

いしめしとくえん。しとま。しとま。しとま。しとま。
褒ホウ貶ニありし。惠秀浄藏とて大徳。しとま。しとま。しとま。
しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。
しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。
しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。

いしめしとくえん。しとま。しとま。しとま。しとま。
しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。
しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。
しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。しとま。

久しぬふれきき章ゆきめくりありわらわら
玉川のちるけの丹ぬり下帯川じよひわ
すれらつしとけきまれ露ちとゆり。めをど
とめらふとあわぬりこ。ちんつまらこ
あり。六条家の本あり。るをもとめてはあこ
まらちちぬりこあり。ゆえこ男もま。
肉令人のみさうけ。あまら子孫。ふり
ゆいて肉令人わつ帯よりまをつけけ。はあまら
まらあまら。六せりりあまら。むらあひん
らとよき。あまら。あせとらり。あ
ありえんとあり。

あつてせぬつらあまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。

けはらとまり例乃筆はよ。一て。福園
け。諸本このころ。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。

將。承平三年左衛門督。式部卿のともや勘云敦
慶親王。やまも 世ももまゝとてやれ女也。
このちのこのまひ。故撰りあつたのここれ
ひまゝやまもこいふ左大臣のまはる思
出と恐れとあつたまゝにまれ候ねれ
はまゝこつひりあつたのこりり。やまも
人まもこいふれらふとあつた
りりもこいふれり。やまも
まゝりもこいふれり。やまも
とひやりなれとあつた
うのねりこいふれり。やまも

くあつたつひりあつた
うり燦りこいふれり。やまも
とひりあつたつひりあつた
りりもこいふれり。やまも
もあつたつひりあつた
やのまゝりこいふれり。やまも
ふもこいふれり。やまも
ともこいふれり。やまも
け山よりやまもこいふれり。やまも
のまれこいふれり。やまも
とありあつたつひりあつた

くもは女はついでにまらわひくくりつある
らちへなれたるつらむいさきらんまも志
らちへ車へのつらむいさきらんまも志
まらちんくくくくくくくくくくくくく
よもそいそくが持のきくくくくくくく
ひなれんあや一さきのつらむいさきらん
く乃がたきことたきよぶあむくくくく
つらむいさきらんまも志
よもそいそくが持のきくくくくくくく
ひなれんあや一さきのつらむいさきらん
く乃がたきことたきよぶあむくくくく
つらむいさきらんまも志
よもそいそくが持のきくくくくくくく
ひなれんあや一さきのつらむいさきらん
く乃がたきことたきよぶあむくくくく
つらむいさきらんまも志

まらちんくくくくくくくくくくくくく
よもそいそくが持のきくくくくくくく
ひなれんあや一さきのつらむいさきらん
く乃がたきことたきよぶあむくくくく
つらむいさきらんまも志
よもそいそくが持のきくくくくくくく
ひなれんあや一さきのつらむいさきらん
く乃がたきことたきよぶあむくくくく
つらむいさきらんまも志
よもそいそくが持のきくくくくくくく
ひなれんあや一さきのつらむいさきらん
く乃がたきことたきよぶあむくくくく
つらむいさきらんまも志
よもそいそくが持のきくくくくくくく
ひなれんあや一さきのつらむいさきらん
く乃がたきことたきよぶあむくくくく
つらむいさきらんまも志

よきしとて。あつてきつていへん。み袍を
きくおやましくいへり。御むらりす
御とらり。りともあつて。くともあらぬ
源氏もあつて。御とらり。りともあつて。り
片使あつて。いあやまき。いへり。りともあつて。り
が將のともあつて。りともあつて。りともあつて。り
眞實也。いへり。りともあつて。りともあつて。り
とりいへり。りともあつて。りともあつて。りともあつて。り
おやまの將のきつて。いへり。りともあつて。りともあつて。り
ちり。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。り
ちの侍居り。御とらり。りともあつて。りともあつて。りともあつて。り

を。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。り
ちり。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。り
ともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。り
て。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。り
うおれおち。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。り
ちり。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。り
廣幡の中納之。勳云。源。慶。明。天。慶。四。年。參。議。三
品。齊。世。親。王。三。男。 齊。世。寬。中。皇。子。母。橘。廣。相。卿。女。
延喜五年出家。延長五年薨。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。り
ともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。り
りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。りともあつて。り

玉々の屏風びんぶをたもとに無のちん下りよ地
 やまとお車よりきりきりまきいりくく
 が梅の宿い何れやういささなれまうとあり
 何のハもあさまうおれおれかたはと。例
 おころり乃おますまう。子信しんの少梅の宿
 としをういさし。梅信ばいよあま。やまとの
 かしらちよし

亭子のこもつやまうつひりまうでまひあ
 りくもれつのもい。きりきりまあらひぬむ
 とらんわあまもきりあし。とまのこまう
 ぶじりおあまとのまうりくはえをいん

こひし清まけをつふまのりまうりて流り
 あまれの。うまきりあ。あまのんまき
 おろまう。又ひあうは。あ。そまうりん
 とし。くもまうあし。乃まあまのつひり
 すめい。まうらやまなつらう。まきてれまの
 ぼおまう。まきをう。清まうあつふまうれり
 あり。くくれのま。おちおろまう。あうりこれ
 とりて。まらあ。まをあんまをま。こりあ
 ぬ

一やまに別る山寺。用山朗辨僧正より。聖
 徳天皇の御家。弘安元年。釋書。あつる。ま

かしこもあはれにいとよき御心
はたしつゝ。あはれにいとよき御心
より。いとよき御心。あはれにいとよき御心
いとよき御心。あはれにいとよき御心
あり

よ。いとよき御心。あはれにいとよき御心
土屋藏。坐をよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心

あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心

あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心
あはれにいとよき御心。あはれにいとよき御心

うらやけくさくさのあはれにわらふ
よりつとまくりしあはれはほのぼほなり
あはれん世なり。あはれもたゞあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ

あはれん世なり。あはれもたゞあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ

古今誅諧歌よりすまのをりりいよん(ま)世

あはれん世なり。あはれもたゞあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ

愚案彼古今乃祇註亦又云けといひの結句よげ
をそくりりもあはれ梅の花はあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれよあはれはあはれはあはれはあはれ

宇多法皇

寬平九年丁巳七月讓位。御于朱雀院。昌泰元年戊午十月廿日競狩御幸。翌日幸吉野宮。瀧二年十月十四日於仁和寺御出家。三法名金剛覺。以權大僧都益信為戒師。十五日於東大寺灌頂。十一月廿一日御東大寺。廿四日甲寅受戒同寺。同月依固辭。停太上天皇号。同三年庚申十月御幸南山。延喜五年乙丑八月七日癸亥御幸金剛寺。六年丙寅十一月十七日公家幸朱雀院。賀法皇四十筭。加爵院司。七年丁卯十月二日丙午御幸熊野。十五年乙亥公家

幸亭子院。加爵院司。十六年丙子三月八日幸朱雀院。賀五十筭。年娶故左大臣時平公女。廢子。九年庚辰月日廢子生雅明親王。延長二年甲申正月廿五日法皇奉賀。今上四十筭。賜饗於百官。三年乙酉廢子生行明親王。四年丙戌法皇幸大井川。十二月十九日京極御息所賀法皇六十筭。有行幸。承平元年七月十九日崩。五八月五日火葬大内山陵。

本奥書云

寛喜三年八月十四日辛未未時於北邊蓬屋終書
寫之功閑居徒然之餘也目盲手振不成字推量而
洙筆計也即校畢當初書寫物以無落字為一得耄
及之後已落數行書入之可恥可悲

或本奥書云

此一帖以京極黃門自筆之本不違一字詭人令書
之但落字等繁多追而猶可加勘校者也

永享三年十月日

權少僧都在判

又或本奥書云

延德二年六月十一日以 禁裏御本令書寫頗可
為證本者款則校合畢

まゝあるちんりよれつひ乃ちのまほし
ことらふ事りうのりあをんあま
うにちつちあひとらちあもあれん
るあんを思傳うねんあ〜あきん
よもちあ〜あまのひすん〜あま
まねん〜あま〜あま〜あま〜あま
いまもんあ〜あま〜あま〜あま〜あま
ちりあま〜あま〜あま〜あま〜あま
ちりあ〜あま〜あま〜あま〜あま

こゝろにちか...

ふらふらと歩くと
あつちをわらわらと見ると

おきこひのこゝろに
自しをたらしめて
あつちをわらわらと見ると

あつちをわらわらと見ると
あつちをわらわらと見ると

あつちをわらわらと見ると
あつちをわらわらと見ると

はあとの友ら

あつちをわらわらと見ると
あつちをわらわらと見ると

あつちをわらわらと見ると
あつちをわらわらと見ると

あつちをわらわらと見ると
あつちをわらわらと見ると

めもあはれまゝにちよとのいあつり又花を
しめかりにせりりあやあまのこころ
つきつるえんごころきこころやうよ
えつれえ物うてしるをきこつり也

壬辰十月中旬

修下拾穂

美原二彦と仲友の日



平賀小左衛門板判

